

壺. 加茂水族館(鶴岡市)

山形が世界に誇るクラネタリウムは圧巻！
クラネタリウムは、加茂水族館が世界に誇るクラゲの展示であり、無数の白いクラゲが幻想的な雰囲気を醸し出す大水槽だ。館内には様々な生き物が展示されているが、クラゲはその中の約半数を占める。また、マイクロプラスチックなどの海中ごみやその中に住む生き物の展示もあり、人間が海洋の生態系に及ぼす害について考えさせられる内容となっていた。順路に沿って館内を抜けると、アシカの水槽が見える。ショーも行われており、曲芸を披露して観客を沸かせた。

おみやげコーナーには水族館の動物たちのクッキーやチョコレートなどがあった。特に人気だったのはクラゲの飾りがついたシリコン製のペンで、中には大量買いたという強者も。館内の廊下にはさまざまなクンからのメッセージやGFP(緑色蛍光タンパク質)を用いた観察実験のレポートパネルなども飾られていた。Oさん(2K)は「クラゲがメインの水族館ですが、普通の水族館にいるような魚類も多くの種類が見られました。やはりクラゲが一番綺麗で、生態も不思議で興味深いものが多かったです」と話す。中でも不思議だと感じたものとして『ベニクラゲ』を挙げる。このクラゲは寿命などで死の危機を感じると若返りまた一から成長していくが、被食者であるため大量発生することはないそうだ。「他にもとても綺麗なクラゲがたくさんいて、毒の強さなども分かりやすく示されているので事前知識がなくても楽しめました」と話した。

水族館を出ると、正面に日本海を臨む崖があり、その上が灯台・展望台となっていた。行ってみると日本海の潮風を肌で感じる事ができた。海は荒れているように見えたが、地元の方は冬場はもっと荒れると教えてくれた。(金)

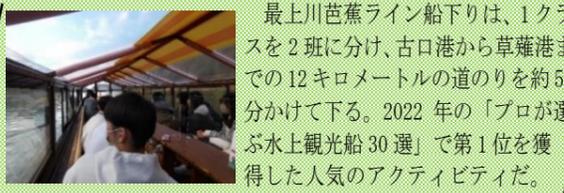
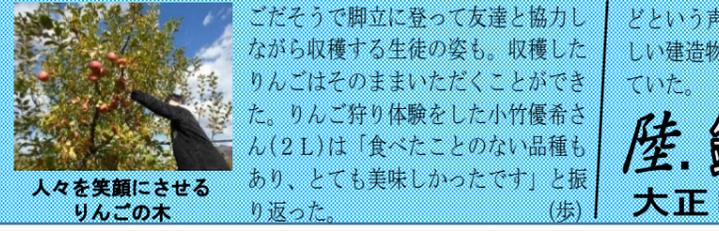
水族館を出ると、正面に日本海を臨む崖があり、その上が灯台・展望台となっていた。行ってみると日本海の潮風を肌で感じる事ができた。海は荒れているように見えたが、地元の方は冬場はもっと荒れると教えてくれた。(金)

水族館を出ると、正面に日本海を臨む崖があり、その上が灯台・展望台となっていた。行ってみると日本海の潮風を肌で感じる事ができた。海は荒れているように見えたが、地元の方は冬場はもっと荒れると教えてくれた。(金)

伍. 櫓下宿・Apple

上山観光フルーツ園(上市市)
溢れる果汁と笑顔

かつて、藩政時代に参勤交代の宿駅として賑わった櫓下宿。ここではたくさんのガイドの方が笑顔で迎え案内して下さり、大黒屋や庄内屋などは中に入ることもできた。また、案内の後は納豆あぶり餅とラ・フランスを振る舞ってくださり、実際に納豆あぶり餅を食べた生徒は「今まで納豆が苦手でしたが、好きになりました」と話す。その後、上山観光フルーツ園にてりんご狩り体験を行った。ここではりんご狩り体験の前にラ・フランスと2種類のりんごの試食が行われ、みずみずしさと甘さに果汁と笑顔が溢れる。試食の後は「りんごを1つ食べ終わってからもう1つとる」というルールのもと、りんご狩りが行われた。美味しいうりんごは、木の、より高い位置にあるりんごだそうで脚立に登って友達と協力しながら収穫する生徒の姿も。収穫したりんごはそのままだくことができた。りんご狩り体験をした小竹優希さん(2L)は「食べたことのない品種もあり、とても美味しかったです」と振り返った。(歩)



最上川芭蕉ライン船下りは、1クラスを2班に分け、古口港から草薙港までの12キロメートルの道のりを約50分かけて下る。2022年の「プロが選ぶ水上観光船30選」で第1位を獲得した人気のアクティビティだ。船旅にはガイドが同行し、通過する名所やそこにまつわるエピソードを紹介する。今回同行くださったガイドの1人である鈴木博也さんはガイド歴20年のベテラン。最上川沿いにある源義経ゆかりの神社や、大ヒットした山形が舞台の大河ドラマ『おしん』にまつわるエピソードが紹介された。川の水面にはカモなどが泳ぎ、大きな波が立つ場所では乗船した生徒が大きな歓声を上げていた。船旅の終盤では「最上川舟唄」を、日本語だけでなく英語などの外国語でも披露。美しい自然と船頭の語りで酔いしれる時間だった。実際に乗船した福田颯也さん(2M)は「難所の下りでは、水しぶきや揺れが激しくてびっくりしましたが、とても楽しかったです。通り過ぎた後方の景色からは自然の壮大さを感じ、とてもきれいでした」と話した。(香)

式. 最上川川下り

プロが選ぶ水上観光船第1位！

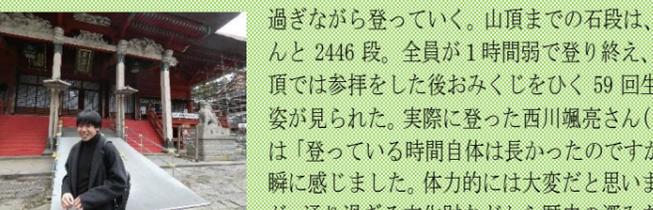


ACFGHIKL組は、山形県北東に位置する銀山温泉を訪れた。独創的で美しい街並みを誇る銀山温泉は江戸時代初期から延沢銀山として栄え、大正から昭和にかけて建てられた洋風の木造建築の旅館が立ち並ぶ。この銀山温泉はジブリ映画の『千と千尋の神隠し』の舞台のモチーフになったといわれている。この温泉街には足湯があり、多くの人が湯につかってくつろぐ。足湯でくつろいでいた59回生に話を聞くと「風情豊かなこの風景を見ながら足湯につかるのは最高です」という声や「足湯の温度がちょうど良く、ずっと浸かっていれそうです」という声が上がった。他にも、食べ歩きをしたり美しい建造物をフィルムに収めたりする59回生で賑わっていた。(桂)

陸. 銀山温泉(尾花沢市)

大正ロマン漂う、レトロな温泉街

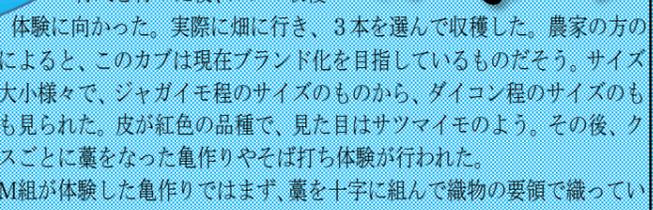
出羽三山は、羽黒山・月山・湯殿山の総称。1400年以上前に崇峻天皇の第一皇子である蜂子皇子によって開かれた。今回は2日目に1クラス、3日目に2クラスが羽黒山に登った。出羽三山には山岳信仰があり、三山それぞれの山頂に神社がある。羽黒山の山頂には「三神合祭殿」があり、そこへ参拝すると三山すべてに参拝したことになるそうだ。山頂へは樹齢1000年を誇る特別天然記念物の爺杉や、国宝に指定されている五重塔を通り過ぎながら登っていく。山頂までの石段は、なんと2446段。全員が1時間弱で登り終え、山頂では参拝をした後おみくじをひく59回生の姿が見られた。実際に登った西川颯亮さん(2M)は「登っている時間自体は長かったのですが、一瞬に感じました。体力的には大変だと思いましたが、通り過ぎる文化財などから歴史の深みを感じました」と語った。(香)



2000段 参. 出羽三山・羽黒山(鶴岡市)

2,446段の石段を全員で登り切ろう！

戸沢村農村環境改善センターで入村式を行った後、カブの収穫体験に向かった。実際に畑に行き、3本を選んで収穫した。農家の方の話によると、このカブは現在ブランド化を目指しているものだそう。サイズも大小様々で、ジャガイモ程のサイズのものから、ダイコン程のサイズのものも見られた。皮が紅色の品種で、見た目はサツマイモのよう。その後、クラスごとに蕘をなつた亀作りやそば打ち体験が行われた。M組が体験した亀作りではまず、蕘を十字に組んで織物の要領で織っていく。次に甲羅となる冠状の輪を編み、最後に蕘をねじって頭と尾となる棒を作って組み合わせれば完成だ。また、実習中にNHK『小さな旅』という番組が取材に訪れ、同番組内で紹介されるなど、59回生にとっても貴重な体験となった。BDG組はそば打ちを体験。そば粉をこねるところから始まり、各班員同士で協力して蕎麦を打っていた。完成した蕎麦を各班で味わったところでそば打ち体験は終了した。(金・桂)



知恵と技術を農村生活体験で学ぼう！

漆. 田舎体験塾 つのかわの里(戸沢村)

1,015段の石段を全員で登り切ろう！ 肆. 立石寺(山形市)

宝珠山立石寺は山寺とも言われ、860年に天台宗の慈覚大師によって創建された歴史の深い寺院だ。この山寺は『奥の細道』を執筆した松尾芭蕉との縁があり、山寺にて「閑かさや/岩にしみ入る/蟬の声」という俳句も詠まれた。山寺には奥の院に通じる1000段の石段があり、石段を上る過程で様々な歴史的建造物や美しい風景を見ることができる。中でも国指定重要文化財の立石寺三重小塔は、小さい建物ながら荘厳な雰囲気を醸し出している。石段を登っている最中、Aさん(2G)に取材した。Aさんは「石段を登るのはとても大変ですが、紅葉が美しく、登っていて飽きないです。残り300段なので、最後まで頑張ります」と笑顔で話した。(桂)



1000段 ぼくぼく、とくぼくグルメリポート

1日目の昼食は「青葉城政宗御膳」。城の形が特徴的なお重だ。噛みしめるほどに牛タンの旨味が溢れた。3日目の昼食は、山形県は日本海側、庄内観光物産館でいただいた。海鮮丼と焼肉、うどんまで付いた豪華なお声があがっており、皆が新鮮な海の幸を味わった。5日目の昼食は青葉城址にて。蟹グラタンや笹かまぼこ



に加え、デザートには、ずんだ餅が。微かに甘くクリームで、枝豆の風味が鼻を抜けていくのが感じられた。山形市内にある和菓子屋「柴田屋」の和菓子は、素材だが飽きのこない甘みが特徴だった。5日間、東北の味覚を存分に堪能できた。(金・香)

柔道部	▽11月13日(日)	第3支部新人柔道大会	優勝
文藝部	▽11月23日(水)	東京都高等学校文化連盟文芸専門部短歌部門	佳作
三好若葉(1B)			
田口・宮部ペア		東京都私学ベスト16	
稲葉・大竹ペア		東京都私学ベスト32	
ソフトテニス部	▽11月13日(日)・20日(日)	第50回東京私立高等学校新人選手権大会	

大会報告